



八月二十五日東京タイムス抄譯
保護稅真理



4253



414
A 3180



千八百七十七年八月二十五日刊行

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

讀合濟

保護税ノ真理

羅馬ノ史策ヲ閱スルノ讀者ハ必ス同國ノアロコシユラル昔
羅馬ニ於テ司政ヲ目シテ濫政ノ最モ甚キ
務メシ役負ノ各稱ヲ云フ
 極点ト見做スベシ然レトモ印度ニ在ル英商等ガ印度ニ施セシ
 残忍酷薄ノ所業ニ比スレバウエベルセス種フオンチ上ノ
 シ、リ國或ハゴールニカヘシモノハ真ニ些々タルナリ固ヨ
 リ羅馬人ガ隸屬ノ人民ヲ掠奪セシハ何人モ疑ヲ容レザル所ナ
 リト雖モ印度ニアル英人ノ如ク屬國ノ賞産生出ノ源ヲ断テ根
 ヲ殺グノアラス又羅馬ノマ子ノ評議官ハ土地ヲ廣メ疆界
 ヲ大ニスルヲ努メタルアレ氏通商或ハ製造ノ壟断ヲ私スルノ
 弊ハ決シテオサバシリシナリ又羅馬ハ英國ガ千八百五十七年ノ

六
歳
首

印度ノ一揆鎮壓後ニ施セシ如キ壓制ヲ行ヒシヲアラズ又「セ子」トノ算中ニハ掠奪無飽ノ意ヲ抱ケルモノアレハ英國ノ如ク法律ノカヲ籍リテ其屬民ヲ強クテ織物或ハ鉄製ノ物等ヲ購買セシメシコアラズ又其司政上ニ於ケルモ英國ノ如ク密賣者ト連結シテ交親ノ隣國ニ向テ毒物ノ供給ヲナシ其屬民ヲシテ看々日ニ月ニ名譽ヲ失ハシメ結局自滅ヲ招クノ通商ニノミ依頼セシメシコアラザリシナリ

我輩印度人民ノ現状ヲ觀ルニ昔日ノ自由ハ悉ク剝奪セラレ恰モ日本ガ鎖國、政略ニテアリシ時ノ下等ノ人民ノ如ク卑屈ノ態ヲ存スルニ至ラシメラレタリ然ラバ則チ今後印度人ハ如何ナル狀況ニ際セシメラル、ヤ又印度人ハ如何ナル所為ヲナスベキニ至ルヤ我輩ハコノ二問題ニ付キ前ノ印度ノ總督ナル「ロベルト、マヨ」氏ガ印度ノ將來ノ危慮ニ苦慮シテ言述セシノ説

話ヨリ左ノ抜萃ヲナシテ記者ニ示スベシ

逐年租税ノ増加アリシヨリ印度ニアル人民歐羅巴人系土人トモハ何レノ職業ヲ管ノルモノモ悉ク不平憤懣ノ意想ヲ現ササルハナシ予ヲ以テ之ヲ觀レバ斯ル不平ノ止マザル中ハ國家ノ大難ヲ醸スベクシテ其害ノ及ヌ所決シテ少々ニアラズトスルナリ或ハ土兵解散ノタメ兵卒ノ間ニ不平ヲ鳴ラスベキヲ顧慮スルモノアレドモコノ一揆ノ不平ニハナレバ固ヨリ同日ノ論ニアラス何レニモ余ハ一時ノ間モ大平無事ノ連續スルニ望ヲ屬スベカラズト虽モ租税ノ増加ニ関シテ一般公衆ノ間ニ凝結セシ不平ノ如キハ結局錯乱紛擾ニ至ルベクシテ唯一部分ノ解兵ノタメノ不平ヨリ生セシモノニ比スレバ一層大危難ノ原因ナルニ似タリサレバコノ二害ニ就キ余ハ其害ハナルモノヲ擇テ之ヲ所セザルベカラズ

抑モ石ニ述ズル如キ危難ノ患フベキモノアルハ何ゾヤ内國ノ
貿易ノ立ズレテ土地ニ産出スルルノ綿業其他ノ物産ノ皆ナキ
製造ノ姿ニテ外國ニ濫出シ隨テ勢ニ苛税ニ傾カザルヲ得サル
ノ状アレバナリ現在ノ状ハ暫ク措キ印度ノ將來ノ狀況ハ如何
ナルベキヤコノ問題ニ係リテハ余ハ記者ガ輓近ニ登錄セシ記
者ノ自説ニ及視センコトヲ望ガルベカラズ其説ニ於テ記者ハ印
度人ニ向テ現今木綿織物ヲ印度ニ輸入セル英商ガ拂ル金額
ノ四百萬弗ノ高ヲ收受スベキ許可ヲバ欲テ受諾スベシト誓言
セシナラズヤ而シテコノ英商ハ何等ノ目的ヲ以テスト云ハバ
印度ノ土地製造ノ唯僅カニ五分税ノ保護ノ下ニアリテスニ十
年ヲ出サルノ間ニ於テ其工業ニ委スルノ資本ハ弥増加シテ貳
千貳百萬乃至四千萬ルポ^{印度}貨幣ノニ上登セシ程ノ有益ナル製
造ヲ壓倒センガタメ一タニ水ニ涵セハ復用ユベカラザル如キ

粗悪ノ織物ヲ輸入セルモノナラズヤサレバ反令セ夫レガタメ
印度ニ四百萬弗ノ収入アリト假定スルモ印度全國ノ損失ハ幾
多ナルヲ知ルベカラズ

又記者ハ其後刊行ノ社説ニ於テ現時印度全國ノ貨幣ヲ成立セ
ル銀貨ノ絶ヘズ下落スルヲ苦慮シ印度ニナル官吏ノ給料又英
國ノ債主ノ収入ヲ維持センガタメノ目的ニテ當時現存ノ約束
ニモ拘ラズ地租并地稅ノ仕拂ニハ銀貨ヲ用ヒハシテハ其用
ユベキコトヲ主唱セシナラズヤ觀ヨ如此ナレバ己ニ困窮貧窶ナ
ル印度ノ農民ヲシテ未タ見未タ聞カザルノ貨幣ヲ用ユルニ苦
マシナカフルニ澳地利或ハ我米國辺ヨリノ金ノ供給ハ衰ヘテ
金ノ需用ハ弥増加シ隨テ債主ノ權力ハ弥熾盛ナルノ所ニマタ
リ之レヲ施行セントマシナラズヤ

距今凡ソ二十年以内ニ於テモシユル千バブル^{佛國ノ經濟}ハ非

常ニ金ノ充溢アリテ隨テ銀ト比較シテ絶ヘズ金價ノ下落ニ赴
クベシトノ思想ヲ抱キ當時記者ガ自國ノ政府或ハ自國ノ債主
トニ関心セシ如ク金貨廢止ノ一論ヲ發セリ蓋シ同氏ハ「ゴベデ
ン」氏ノ思想ニ依レルモノト思ハル實ニ斯ル前見ノ果シテ違ハ
ズ又其論說ノ實際ニ施行セラレシ片ハ恐ク銀價ハ上騰スルア
リテ印度政府ヲシテ是迄六「オン」スヲ以テ拂ヒタル公債ノ利息
ヲ四「オン」ス乃至五「オン」スニテ拂フコトヲ得セシムルニ至
ルナルベシ好シ又斯ニ至リタルニセヨ夫レガタメ印度ノ減租
ノ方ニ幾分ノ進捗ヲ與フベキカ我輩決シテ其コトナキヲ保スル
ナリ今左ニテ「ト」ツク「#」ヴク「」氏ノ説話ヲ引テ其然ル所以ヲ
示スベシ

蓋シ英人ノ眼目ニテハ可善善惡ヲ判スルニアタリ先ツ英國
ニ裨益スルト否ルトヲ以テ標準トス故ニ英國ニ補アルノ政

府或ハ人氏ハ加フルニ美稱ヲ以シ英國ニ不利ナルモノハ目
スルニ惡名ヲ以スサレバ善惡可善ヲ判定スルハ唯金ク英國
ノ利不利ニミ由ルモノ、如シ

蓋シ「ロ」ベルト「マ」ヨ「」氏ノ印度副政ノ日ニ於テハ如此苛酷ノ收
斂ノ所置ハ決シテ用ヒラレザルベシ而シテ記者モ亦斯クアル
ベシト確信セシナルベシ然レトモ印度政府ヲ維持センニハ何
等欲ノ斯ル類ノ所置アラザルベカラズ而シテ其策ハ「」何
シヤ又河レニ就キテ之ヲ發見スベキヤ我輩ノ察スル処ニラハ
記者ノ明知セラル如キ一種奇密ノ秘策即チ不正ナル鴉片商業ノ
擴張策ニ出テタルニ疑ナシ他ナシコノ秘策ナルモノハ英國政
府或ハ英國一般ノ人民ガ凡ソ二十年間實施スル所ノ自由貿易
ヲ以テ印度ノ巨百万ノ人民ヲ支配シテ此自由貿易ノ下ニ壓制
スルノ大策ニテアリキ蓋シ英國人ハ印度國侵入以前又此ト自

由ノ高度ニ達シタレバナリ

記者ハ英國政府ト「ガリ、バートル、フリル」氏ノ亞丕利加ニ残存セ
ル僮ニノ奴隸商業ヲ廢断セシ事業トヲ賞歎セシ「幾回ナリシ
モ更ニ東方亞細亞ニ於テ英人が左ニ記載セル如キ奴隸商業ヲ
行ヒシ事ニハ更ニ一言ノ及ブナキハ奇怪ナラズヤ

「チヤイニス、リポシタリ」新聞ノ記者ノ言ニ云ク精酒ノ沈酔

ト鴉片ノ沈酔トノ間ニ特殊ノ注意ヲ要スベキ大差一マ蓋

シ鴉片ノ害ヲ駁スルニハ酒ノ害ヲ尤ムルヨリ十倍ノクヲ以

テ論セザルベカラザルモノアリ實ニ鴉片ガ人ヲ危害ニ陥レ

ラムルノ絆束ニ比スレバ地球上一個ノ奴隸ナキト云テ可ナ

ル程ニテ人、一旦鴉片ノタメニ犠牲トナリシ片ハ曾テ之ヲ

逃レシノ例アラズ也ナシ鴉片ハ殺ノ妖魔ニシテ一タヒ之レ

ニ耽ケルハ異常ノ自治ノ精神アルカ若クハ耐忍ノ能力アル

ニアラザレバ決シテ耐當シテタケレバナリ然ラバ鴉片ノ患
ノ酒ノ害ニ比較シテ苛烈ナルハ辨ヲ待タザルベシ

又鴉片ノ第一ノ害ヲ云ハバ其毒ノ人間ノ体格上ニ及スモノ

甚クシテ永ク鴉片ヲ喫スルモノハ先ツ飲食機能ヲ損シ腸胃

ヲ害シ氣血ノ循環ヲ阻隔シ血質ヲ腐敗シ又精神ヲ衰耗シ神

經ノ活動ヲ鈍クシテ遂ニ人間ノ靈知ヲ失ヒ禽獸ト相異ナル

ナキニ至ルナリ支那ノ某「官」名云クハノ鴉片ヲ喫ス

ルニアラズ鴉片ノ人ヲ食スルナリト真ニ宜ナルカナ

余ラシテ之レヲ云ハシメバ英國人ハ「官」名ノ「官」名タルン

称ノ眼睛ヲ蔽ヘルモノヲ拭尽スルノ前矢ツ自己ノ視目ヲ遮断

スルモノヲ洗除スルヲ緊要トスト云ハザルベカラズ

抑ニ鴉片ノ商業ガ何程亞細亞地方ニ於ケル耶蘇教者ノ進歩ヲ

妨ケシカハ寛年(千八百七十五年)ノ春廣東ニ會聚セシ十八名ノ

各國ノ宣教師ノ書ニ於テ詳カナリキ

云ク耶蘇奉教ノ人民中殊ニ英國ガ鴉片ヲ支那ノ市場ニ輸送スルヨリシテ為メニ耶蘇教化ノ妨碍ヲナセシトスルハ輿論ノ駁スル所ナリ

又ウイクトリア^ア香港ノ僧正ノ發言セシ一語アリ一層激烈ヲ覺

余ガ説教ヲナスノ際聴聞者ノ發論ニヨリテ好ケラレシハ幾回ナルヲ知ラズ其言ニ云リ且下ハ英國人ナラズヤ英國ハ鴉片ヲ我國ニ輸送スルノ國ナリ然レバ且下先ツ國ニ歸リテ鴉片輸送ノコトヲ停止スベシ然レ後我輩等敬テ耶蘇ノ教化ヲ仰クベキナリ

又耶蘇ノ教旨ヲ奉シカフルニ父朋ヲ以テ世上ニ誇揚セルノ英政府ガ取用セシ政畧ノ影響ノ當ニ支那一國ニ止ラズシテ他國

ニモ播及セシハ^各ランゲン^地ニ在ル英國ノ宣教師ノ言ニ就キラ

明ケシ云ク緬甸國ニ於テハ英國人ノ来ラザリシ以前ニハ飲酒ニ耽リ鴉片ヲ喫スルノ惡習ハ絶ヘテアラザリシカ其後英人ノ来リシ以來ハ斯ル惡習ハ全國ニ傳播シテ政府ノ歲入モ過半ハ之レヨリ徴收スト云フ

東方ノ謠ニ云リ他ヲ害スルハ已レヲ害スルノ媒ナリト今英國政府ト人民トガ支那ニ被ラシメタルノ害ノ知ラズ識ラズ同國ヲ害損スルノ証アリシハ逐年英國人民ノ間ニ於テ過度放恣ノ惡習ノ増加アルニ徴シテ明瞭ナリ

試ニ左ニ英合聯王國ニテ消費セシ飲料ノ高ヲ揭示スベシ

千八百六十年分

燒酒

ガロン

二六九二四六一一

麥酒

六七二一七〇三二六

葡萄酒

六七一八、五八五

千八百六十九年分

燒酒

ガロン

三〇、一一四六二四

麥酒、エール、ポルトル

八九五、〇〇四四一二

葡萄酒

一四七二、三五三四

千八百六十年ノ消費ノ千八百六十九年ニ比シテ増加

燒酒

百ニ付キ一、八四

麥酒、エール、ポルトル

同 三一、二七

葡萄酒

一一九、三一

千八百六十年ノ統計

ガロン

七〇七、八一四、九二二

千八百六十九年ノ統計

九二九、八四二、五七〇

計百ニ付キ增高三一、二七

右ニ掲クル第一ノ年ハ米國ノ自由貿易ノ繁盛ヲ示シテ英國ヨリ
 若干ノ鐵器等ノ購求ヲ受ケシ年期タリ又第二ノ年ノ如キハ千
 八百六十六年ノ財政ノ危難ヨリ及セル不景氣ノ中タリ此ヲ以
 テ見レバ飲料ノ消費ノ多寡ハ職業ノ需用即チ給銀ノ増減ニ因
 ラザルモノノ如シ尤モ飲料。アラザル他ノ物品類ノ消費ハ我
 輩ノ知ル丈チニテハ其消費力ノ増減ニ基セルテハ大ク頻ハ
 セリ

記者若シ斯ル不品行ノ由来セシ源因ヲ理會セントナラバ現今
 ノ「ド」トムマブツク「ウ」井ルアム、セコンケロルノ英國ニ王タリシ
 或ハ土地所有者等ヲ記載セルミナランニ就カバ思案バニ過ク
 フ我國ノ地券大帳、如キモノナランニ就カバ思案バニ過ク
 ル所アルベシ然ル片ハ英國ハ世界ノ概半ノ人民ハ租稅ヲ課セ
 シニヨリ纔ニ壹万貳千人ノ人負ガ英國ノ以テ利スベク以テ用

エベキ土地 三千四百万「エ」クルノ内ニ於テ三千万「エ」クル
文ケノ所有權ヲ收握スルヲ得シト又蘇格蘭ノ半ハ「フ」凡ソ二
十人ノ所有者ニテ所有シ隨テ「ア」ダムスミス「英」アール、ヨング
ノ時代ニアリテハ土地ノ小所有者ニテアリシ農夫ノ今ハ「陸」然
ノ状ニ陥リシト「ト」ヲ突見スベシ何故斯ル状勢ニ至リシカ「理」
會セシ「ハ」決シテ難キニアラザルベシ也ナシ土地專斷ノ權「殊」
甚ケレバ社會ハ貧富ノ二派ニ分隔スルノ傾向殊甚キモノハ「レ」
「バ」ナリ觀ヨ羅馬ノ時代又南米ノ諸州或ハ目今ノ印度ノ如キ是
レナリ英國ニ於ケルモ社會ニコノ状勢ノ甚キモノヲ現ハセシ
ハ左ニ示セル英國ノ雜誌ニ就テ明識スルニ足ルベシ
英國ニアリテ第一等ノ家産ヲ有シ社會ノ第一等ノ地位ヲ占
ムルモノハ亦其地位ニ應スルノ欠乏ニナキ能ハズ試ニ云ハ
シニ倫敦「テ」ムス「辺」ノ宏壯ナル華屋モ我有ナリ又山村ノ別

莊或ハ「ハ」イランド^各地ノ獵園ニ我有ナリ或ハ「巴」里ノ「ホ」テ^ル或
ハ「ゴ」モノ閉室或ハ「カ」イロ乃至「ゴ」ンスタンチノ「ノ」ブルノ商館
或ハ遊舫或ハ競馬場或ハ劇場ト其需ムル所限りナクシテ奢
移ノ上ニモ奢侈ヲ欲シ其状ハモ羅馬ノ貴族ガ幽美ノ高木屋
ニアリテ妄想ヲ感スルト一般ナルベシ「ス」ペクテ「ク」ル新聞
ニ見ユ
凡ソ男女ヲ問ハス年齒五歳ヨリ十六歳迄ノモノガ力役者ノ
困窮依ル所ナキヨリシテ人買者ニ賣ラレ、モノ其數毎週幾
人ナルヲ知ラズコノ人買者ハ此等ノ以年輩ヲ聚メ驅テ之ヲ
隔遠ノ工場ニ送り其歩行ニ堪ヘザルモノハ互ニ相負擔シテ
其場ニ赴カシム而シテ其所ニアリテハ一日十時間ノ仕事ヲ
ナスノ外五里ノ路ヲ往復スルヲ常トス其慘状云フベカラズ
固ヨリ英國ノ寺領オニアル力役者ハ過半粗惡ノ態ヲ免レズ

ト虽モ右述ブル如キ不幸ノ少年ノ力役者ノ間ニ至リテハ
閑化ノ跡ハ全ク断ヘ其平生ノ以テ樂トスル処ハ不行儀ノ所
業ニシテ或ハ其雇主ニ叛キ路ヨリ遁逃シ或ハ男女ノ間ノ不
品行ノ事ヲナセルアリテ男女トモ公然野蠻人ノ間ニスラ尚
アルベカラザルノ醜行ヲナシ更ニ之レヲ恥ルノ状ヲ見ズト
(イビド新聞ニ見ヨ)

以上ニ詳述セシ各種ノ実事ヲ審察シテバ記者モ必ス「イビド」ス
ミスト同説ニシテ内國貿易ノ外國貿易ニ勝ルノ説ヲ信用セル
人ニ負ハシムルニ不学暗弱痴愚不公平等ノ惡名ヲ以ラセシハ
非常ノ誤見ニテ改メザルベカラザルノ妄論タルヲ察明スベ
シ想フニ又記者ガ經濟ノ真旨ニ意ヲ注ケル丁弥深密ナルアレ
バ記者モ世人ガ我輩經濟學士ヲ目スルト同ク正當ノ眼目ヲ以
テ觀察ヲ下スニ至ルベク又次ニ示セル如キ大經濟學士ノ英國

人中正當ナル心志ヲ抱ケルモハ政界上ニ徴シテ將來ヲ改良
セザルベカラザルモノアリト説述セシモ全ク真理ニ基マシ丁
ヲ悟了スルニ至ルベキナラン

夫ノ印度ノ一揆英「クリミア」ノ戦争ニ於テ英國ガ他國ニ人
望少キヲ証スルニ足ル後令レ政羅巴ノ全國ハ英國ノ敵ノ殘
忍酷薄ナルヲ嫌惡スト雖モ亦英國ヲシテ全勝ヲ得セシムル
ヲ欲マズ是レ或ハ各國ガ他國ノ繁盛富強ニ至ルヲ希圖セザ
ノ陋見ニ出ルモノノ如シト雖モ亦十ノ八九ハ各國ガ英國ノ
唯ニ自國ノ強大ノミヲ計リ又英國ガ當時ノ各國中ニテ殊ニ
恤人ノ意ヲナス又各國人ノ意想ノ如何ニ顧慮セザルアリテ
只管自利ヲ較計スルニ汲々タルヲ知レバナリ好シ又後令レ
英國ノ所為ハ他國ノ違ヲナスニ似タルモノノ如キモ其實自
國ノ利ヲ計較スルノ深意アルヲ識レバナリ如此言述セバ或

ハ過言ニ近キヲ免レズト虽モ決シテ其蹤跡ナキニテラス以
上千八百七十二年（六十二年）（誤カ）（六十二年）デー、トック、ヒヴ、ギル、氏ヨリ「エン
ダブリユウ、セニオル、氏ニ寄スルノ書ニ係ル」

デー、トック、ヒヴ、ギル、氏ノ右ノ書ヲ記セシ日期ヨリ算スレバ凡
ソ二十年ヲ經過シタリシガ其年間ニ於テ英國人民ノ思想ノ方
向ハ改良ノ途ニ赴キシカ又英國人民ハ其日ヨリ自利ノ心ヲ薄
クセシカコノ問題ニ付テハ記者ノ「ロールド、ガリス、ホル、ド、氏ノ
印度ノ政畧ニ関シテ説述セシモノヲ觀ルヲ要ス然ルハ其又
中ニ於テ英國人ヲシテ全人等ガ不幸ノ支那人ニ向テ寛大ノ所
為ヲナセシノ一文家アル故又英國人民ガ唯「モンチエスタ、ノ
製造ノ保護ノ一偏ニ傾クアリテ古今ノ史乘ニモ無類ナル醜態
ノ頓易ヲ取行ヒシ」ヲ警惕セシムルノ一語アル故ヲ見ルベシ」
彼ノ英領亞米利加一輸入セシ亞丕利加人ノ数タルヤ貳百五十

万ニ及ヒ陸分トモ尠トセス然レ氏之ヲ英國ガ強テ鴉片ヲ購買
セシメン為メニ支那人ノ衰亡漸尽ニ至リシモノニ比スレバ十
ノ一ニモアタラズ英國ガ他國ニ對シテ不仁不義ノ名ヲ得ル其
謂レナキニアラズ

我輩ハ斯ノ論シ来テ記者ニ痴呆不公平ノ事業ハ全ク印度人ヲ
シテ保護稅國ト共ニ「アダム、ス」ノ論述セシ内國貿易ノ利益
ヲ享得セシメガルノ結果タル「ヲ解得セシメン」ヲ望ムアリ
保護稅ノ真理

第八篇

我輩ハ是レヨリ左ニ各國ノ事情ヲ概示スベキ二三ノ緊要ナル
實跡ヲ列記シテ記者ノ觀ニ供ヘ以テコノ論旨ノ局ヲ結ハント
土耳格帝國ノ何種ニ論ナク天然ノ利ヲ有セシ國ナリシガ之レ

ニ至リテ英國ノ自由貿易ノ政畧ニ壓伏セラルノ状ニ陥リテ
シテ全國ノ内國貿易ハ空ク地ニ墮チ剩一各國政府ヲシテ其人
民ノ土耳其格ニ債主タルモノノ請求ヲ満足セシムルガため其土
地ヲ管理セシムルニ至リタリ
印度モ自由貿易ノ政畧ニ從ハサレシヨリ今日ハ其公債ノ利息
ノ拂ニ充ルサヘ不面目ナル鴉片ノ商業ニ由ラザルベカラザル
ニ至レリ
秘露「ニパレタ」其他伊西班牙領亞米利加ノ諸國ニテ重英國
ニ屬マシモノハ皆ナ會計ノ欠乏ノ状ヲ現ハセリ
澳地利ハ自治ノ制度ヲ設ケ内國貿易ヲ立ルガエハ現今植民ス
ルモノ日ヲ逐テ繁殖ニ赴ケリ普魯士ハ多年ノ經驗ノ後日耳曼
聯邦ハ充分ノ内國貿易ヲ設立マシユヘ今日ハ世界屈指ノ富强
國ノ魁首ニ任セリ

佛蘭西ハ平生保護ノ政畧ニ由レルユヘ今日ニ至リテハ通商ニ
於テ世界無比ノ獨立ノ状勢ヲ占メリ
千八百六十年前ハ我米國モ一ニノ取除ハ措キ殆ト自由貿易ノ
制度ニ屈從マラレシユヘ其結局南北ノ間ノ貿易ハ「バプー」
ノ港ヲ經テ取行ハレ隨テ同港ヲシテ米國ノ貿易ノ中ニテ石ノ
シメタリ且又之レガため我國內ノ通路ハ西ヨリ東ヘノモノハ
開ケルアレ氏内國貿易ノ衰セマシヨリ北ヨリ南ヘノ路ハ棄ル
ハニ至レリ此ヲ以テ一部ハ繁盛ニ赴クモ一部ハ衰運ニ傾ケル
ヨリシテ遂ニ我米國ノ自由黨ト奴隸黨トノ間ノ分離ハ甚キ
ニ至リ彼ノ數万ノ人命ヲ損シ巨百万ノ金額ヲ費マシ南北ノ戰
ヲ釀スニ及ビタリ自由貿易ノためニ犧牲ニ供セラザルノ害少ク
アリト云フベカラス
然ルニ千八百六十年以後ニ至リテハ我米國ハ反對ノ針路ニ政

田谷轉主シテ内國貿易ヲ擴張セシユハ為メニ各州ト各州
ノ間ノ通運ヲ便ニセルノ南北ノ道路モ相開ケ内國ノ貿易ヲ
盛大ニスルヲ得テ僅カニ十五年ノ星霜ヲ経ガルニ世界各國ト
對峙スルノ丁ニ至リタリ是レ他ナシ我米國ガ夫ノ大經濟學士
ナル「アダム、スミス」ノ教旨ヲ奉シテ政畧ヲ施行セシユハナリ
記者モシ内國貿易ノ發達ヲ主トセルノ國ト英國ノ自由貿易ノ
廢政ニ苦メラル、ノ國ト何レノ國ガ最モ能ク世界ノ通商ニ裨
フ所アル歟ヲ比較シナバ記者ノ平生言述セシ無學暗弱、台稱
ハ何レノ方ニ付スベキカラ自決スル所アルベシ

一シリ、シ、ケリ

